



団子作りに一生懸命

黒崎小学校（佐々木一夫校長、児童16人）では1月22日、凧揚げ大会とそば打ち、ミズキ団子作りなど同校を会場に実施しました。種まきから収穫までを行っている子どもたちは、おばあちゃんたちに手ほどきを受けながら、手馴れた様子で、一生懸命そばを練っていました。心を込めて練ったそば粉は、そば昼食会になりました。「今までで一番おいしい」と、次々に発表する子どもたち。



手分けして作るミズキ団子=写真=は、赤や黄色に色付けされ、ゆでたのち、ことし一年の無病息災や豊作を念じながらミズキに飾られました。児童たちはこのあと、グラウンドに集合。冬休みに作ったたこを持ち寄って、たこ揚げ大会を行いました。無風状態の穏やかな日に心配された「凧揚げ大会」でしたが、子どもたちの歓声に、たこは空をめがけあがって行きました。



村消防団（道合 政喜団長）の出初

無火災の誓い心新た

式が一月四日、役場前広場を主会場に行われました。

消防団員 九十七人、婦人消防協力隊員五十人が参加。今年一年の無火災を祈りなが

ら、消防団の団結を示しました（写真）。
総監の深渡宏村長は「村民の生命、財産を守る使命を一層確認し合い日々精進していただきたい」と訓示。服装や機械器具の点検のあと、団員、婦人消防協力隊員、久慈消防署普及分署員らと消防車両十二台が村中心部を分列行進し、村民に火災予防を訴え、消防団の意気を示しました。

鵜鳥神楽新春に舞う

村の鳥居地区にある鵜鳥神社に伝わる鵜鳥神楽の巡業が一月三日から始まりました。南回りの今年には村から釜石市方面へと神楽衆が足を延ばし、旧家や公民館で家内安全、無病息災を祈る多彩な神楽を舞い、沿岸地区に新春を呼び込みます。
神楽衆は三日、鵜鳥神社遥拝殿で「シヨシャ舞」「権現舞」と呼ばれる舞立ちの儀式を行いました。

当日の公演は鳥居地区。神楽衆一行は「権現舞」を演じながら入場。「権現」とは神の仮の姿といわれ、権現様をい



たいた神楽衆の「権現舞」は、その夜の宿をいたたく場所に入る際の礼儀とさされてきました。
太鼓や笛、手平鉦が鳴り響く中、松を迎えて新しい年を祝う「松迎い」や厄難を祓う祈とうの舞い「山の神」（写真）

など九演目を披露しました。鵜鳥神楽のこの巡業は「霞掛け」と呼ばれ、今年には南回りで釜石市方面までの巡業です。鵜鳥神楽は、九世紀初めに建立された同神社が、山伏修験者の霊場として発展していた際に生まれたとされています。